

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 3 日現在

機関番号：33930

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520215

研究課題名（和文） 中国笑話集と日本文学・日本語との関連に関する研究

研究課題名（英文） Research on the Relation between Chinese Funny Stories and Japanese literature and language

研究代表者

島田 大助（SHIMADA DAISUKE）

豊橋創造大学・情報ビジネス学部・教授

研究者番号：50351177

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国笑話集の翻刻・注釈を行うための基礎研究と位置づけ、研究を開始した。研究期間終了時点で、和刻本『解顔新話』『笑林広記鈔』と『新鐫笑林広記』『絶纒三笑』『訳解笑林広記』『即当笑合』との本文比較、文字の比較、原話（『新鐫笑林広記』の該当話）の邦訳を行い、浮世草子、日本笑話、川柳などへの影響を指摘した。これらの他に、本研究では中国笑話の検索システムを開発しており、現在その試作版を公開している。

研究成果の概要（英文）：

This research is a fundamental project to translate and annotate Chinese funny stories. My final objective is to translate the original Chinese funny stories, *Shinsenshourinkouki* and compare its content and language with Japanese translated *Kaiganshinwa*, *Shourinkoukishou*, *Shinsenshourinkouki*, *Zetsuensanshou*, *Yakkaishourinkouki*, and *Sokutouewase*. Furthermore, I would like to represent the influence of *Shinsenshourinkouki* on Japanese literature such as *ukiyo-zoushi* and *waraibanashi* (funny stories), as well as Japanese short poem, *senryu*. A part of my working project for the Chinese funny stories can be seen on the Internet.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：近世文学・日本笑話・中国笑話・近世の漢字表記

1. 研究開始当初の背景

日本近世文学を読む時、韻文散文を問わず

多くの作品の中に笑いを見つけることができる。だが、これまで日本近世文学の研究において笑いを正面から捕らえた研究が行われてきたかという、その数は決して多いとは言えない状況にあった。こうした状況の一因として、日本近世文学に多くの影響を与えたと推測される中国笑話集についての研究が、これまで多く行われていないことが挙げられた。本研究は、こうした現状を踏まえ、中国笑話集そのものの研究及び、日本近世文学への影響関係を明らかにするために研究を行うことにした。なお、清代の中国笑話集には、多くの異体字が使われているが、これらの文字についても、研究が十分に行われていない状況であった。そのため本研究では、異体字についても、データの収集を行うことにした。

2. 研究の目的

本研究は、日本と中国の笑話について研究を行い、以下の点を明らかにすることを目的とする。

- (1) 日本、中国の笑いの性質を明らかにする。
- (2) 日本、中国の笑話の影響関係を明らかにする。
- (3) 中国笑話から、噺本、浮世草子をはじめとする近世小説や、落語・講釈・講談といった舌耕文芸・芸能への影響を明らかにする。
- (4) 漢字表記との比較を通して、中国語受容の特徴を明らかにする。

以上の研究を通じて、文学研究はもとより、国語・芸能研究、日本と中国の風土・文化・国民性を比較検討する上で重要な情報を研究者に提供する。

3. 研究の方法

日本、中国の笑話研究を通して、それぞれの国の文学、国語、芸能についての理解を深め、日中両国の風土・文化の比較を行うための情報を与えることを目的とし、以下の6項目について研究した。

- (1) 諸本調査

- (2) 書誌情報の整理
- (3) 収集資料のデータベース化
- (4) 和刻本中国笑話集の翻刻
- (5) 翻字を行った文字のデータベース化
- (6) 日本笑話、浮世草子、川柳など、日本近世文学への影響についての調査。

4. 研究成果

平成 21 年度については、『笑府』より先行研究が少ない『笑林広記』を中心に行うこととし、諸本調査（撮影を含む）、それに基づく書誌情報の整理を行った。未報告の刊記を持つ本の存在が確認できた一方で、これまでに報告されている本の所在が確認できないことが明らかとなった。

翻刻及び異体字調査については、和刻本『笑林広記鈔』『訳解笑林広記』を対象として行った。これに加え和刻本『笑林広記鈔』については、所収笑話全文の注釈・口語訳を開始した。

当初の研究計画では予定していなかったが、中国笑話の日本笑話への影響関係を明らかにするためには、傍訓（ルビ）についての研究も必要と考え、研究課題に加えることにし、この分野についても研究を開始した。

収集した画像及び翻刻を行った本文を、順次データベース化した。新たに構築したシステム（試作版）を利用して、これらデータベース化した資料についての公開を Web 上で開始した。

平成 22 年度については、『笑林広記鈔』『訳解笑林広記』の諸本調査（撮影を含む）、それに基づく書誌情報の整理を行った。調査の結果、異版の存在は確認できなかったが、複数回刊行されていると思われたため、さらなる調査が必要であるとの認識に達し、平成 23 年度も継続して行うことにした。

翻刻及び異体字調査については、『笑林広記』『訳解笑林広記』を対象として行い、『笑林広記』については作業を終えた。『笑林広記』については、所収笑話全文の注釈・口語訳を、ほぼ終えた。『解顔新話』についても、注釈・口語訳を開始した。

収集した画像及び翻刻を行った本文については、順次データベース化した。平成 21 年度の研究成果としてシステム（試作版）を公開したが、平成 22 年度もシステムの改善を行った。

平成 23 年度は、『解顔新話』の翻刻・注釈及び日本近世文学との影響関係についての検討、『笑林広記』と『絶纒三笑』の比較、『訳解笑林広記』の諸本調査（撮影を含む）を行った。

3 年間の研究期間で、和刻本『笑林広記』『解顔新話』については、『新鐫笑林広記』との本文比較、原話の邦訳の作業をほぼ終え、浮世草子、日本笑話、川柳などへの影響を指摘した。

研究を通じ、漢字に付される傍訓の重要性を改めて感じた。中国笑話の日本笑話化を検討するためには、笑話に付された傍訓は文脈理解のうえで不可欠であり、今後も継続して取り組まねばならない課題であると考えた。

これまで行った研究には、異体字の調査も含まれていた。近世期は、現代に通じる文字が確立する時期にあたり、文字表記が固定していく過程で出版物が果たした影響は大きいと考えたからである。今回研究対象とした『笑林広記』は、日本、中国で繰り返し刊行されている。版の違いにより文字表記が異なっていることが、本研究で行った調査で明らかになりつつある。今回の研究では十分に成果を出すことが出来なかったが、『笑林広記』『解顔新話』については、調査を終えたので、『中国笑話集と日本文学・日本語との

関連に関する研究報告書』等に比較を行ったものの一部を示しておく。

調査を行う過程で、今回取り組んだ研究を更に発展させるために必要な研究テーマが明らかになった。『笑府』『笑林広記』の間に位置する『絶纒三笑』である。近世日本への伝来について、ほとんど検討されていない書籍であるが、日中の笑話についての研究を行う上で、『絶纒三笑』についての調査は不可欠であると考ええる。

また、今後、広く東アジアを対象として文学研究を行うためには、朝鮮漢文笑話集を視野に入れることの必要性も今回の研究を通じて感じた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

①荒尾禎秀、和刻半紙本『笑府』に関する二三のこと、日本近代語研究五（ひつじ書房）、査読有、2009、pp.55-68

②佐伯孝弘、近世前期怪異小説と笑い、笑いと創造第 6 集基礎完成篇（勉誠出版）、査読無依頼原稿、2010、pp.327-346

③梅田貴士、山口満、島田大助、中国笑話集における文字情報のデータベース化、豊橋創造大学紀要第、査読有、第 14 号、2010、pp.147-150

④梅田貴士、山口満、島田大助、中国笑話集を対象とした文字情報検索システムの機能改善、豊橋創造大学紀要、査読有、第 15 号、2011、pp.195-198

⑤荒尾禎秀、漢文戯作の語彙 一唐話語彙受容と創造一、日本語学会 2011 年度秋季大会予稿集、2011、pp.3-8

〔学会発表〕（計 2 件）

①佐伯孝弘、近世前期怪異小説と笑い、高麗大学校日本研究センター日本学シンポジウム「江戸文学の中心と周縁」、2009 年 9 月

18日、韓国高麗大学校

②荒尾禎秀、漢文戯作の語彙 ―唐話語彙受容と創造―、日本語学会秋季大会シンポジウム「近代語研究の資料と方法」、2011年10月22日、高知大学

〔図書〕(計1件)

①島田大助、川上陽介、佐伯孝弘、荒尾禎秀、山口満、株式会社ツーンネット出版事業部、中国笑話集と日本文学・日本語との関連に関する研究、2012年3月30日、152

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://document.sozo.ac.jp/cjdb/>

「『笑林広記』情報公開サイト」山口満、島田大助 2011年9月9日～

6. 研究組織

(1) 研究代表者

島田 大助 (SHIMADA DAISUKE)
豊橋創造大学・情報ビジネス学部・教授
研究者番号：50351177

(2) 研究分担者

佐伯 孝弘 (SAEKI TAKAHIRO)
清泉女子大学・文学部・教授
研究者番号：40255956
荒尾 禎秀 (ARAO YOSHIHIDE)
清泉女子大学・文学部・教授
研究者番号：20014813

(H21：研究協力者)

川上 陽介 (KAWAKAMI YOUSUKE)
京都大学・国際交流センター・非常勤講師
研究者番号：00574451

(H21：研究協力者)

山口 満 (YAMAGUCHI MICHIRU)
豊橋創造大学・情報ビジネス学部・専任講師

研究者番号：60413762

(H21：研究協力者、H22：連携研究者)

(3) 連携研究者